

1. 人権尊重

子どもの人権条約の遵守、ならびに本市が制定した「すこやか宣言」を尊重し、子どもの最善の利益を追求する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	88%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ち、立場にたって、ひとつの枠に入れることなく、子どもがのびのびと自由に遊べるように保育にあっている。 ・皆の前で叱らないようにしている。そして、それぞれの子どもの気持ちを他の子どもにも分かるように伝えている。
(2) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	95%	<ul style="list-style-type: none"> ・男女関係なく、日常的にママごとを楽しんでいる。 ・ママごと用のスカートやおんぶひもは誰でも使えるように用意している。

2. 説明責任

保護者や地域の子育て家庭に、保育所の役割や保育内容について情報提供をする。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時の面談や保育園のしおり、掲示物で周知している。
(2) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	77%	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から保護者とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。 ・曜日や時期によって、空部屋ができるので、相談室として使っている。 ・職員体制などにより、いつでもゆっくりと時間をとっての相談を受けきれないこともある。

3. 情報保護

保育にあたり知り得た子どもや保護者の情報は、正当な理由なく漏らしてはならない。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	88%	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関わる書類等は施錠できる書庫に保管している。 ・プライバシーに関わる情報について職員間で話す場所を考慮している。 ・ホームページやおたよりへの写真掲載の承諾をとり、取扱いに注意している。
(2) 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	67%	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や朝の打ち合わせの時間で職員に周知してきた。 ・情報に関する取扱いの研修にて意識を高めて理解している。

4. 苦情処理

保護者からの信頼を高め、福祉サービスの質の向上に向けた取り組みの一環として、保護者等からの苦情や意見等に対して、迅速に対応を進める。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	92%	・意見があった時はその日のうちに対応している。 ・クラスの中で対応すべき要望については、迅速に保護者と話し合いの機会をもち、納得してもらえるようにしている。
(2) 苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している。	87%	・苦情解決の仕組みを掲示している。

5. 保育内容

一人ひとりの子どもの置かれている状態、及び家庭・地域社会における生活の実態を把握するとともに、子どもを温かく受容し、適切な保護・世話をし、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるようにする。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 保育計画が保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	93%	・保育指針に基づきながらも、地域性や子ども達の実態を把握して、作成にあっている。
(2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を改定している。	85%	・自己評価が適格にできていないことがあり、副園長がその都度確認をして指導する。
(3) 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	96%	・子どもの気持ちに寄り添い、個々に見合った関わり方、対応をしている。
(4) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	87%	・日常の中で自由に楽器や絵の具、ハサミなどが使えるようにはできていない。人手がない場面では制限をしまっている。 ・異年齢保育の中でも自由に好きな素材、物に触れて遊べる環境を作っていきたい。
(5) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	98%	・子どもの状況に応じて、声かけを行いゆったりとした雰囲気の中で対応をしている。

(6)身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	79%	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼうの会や中学生の職場体験で地域の方と触れ合う機会がある。 ・公共機関を使う体験はできていない。
(7)さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	87%	<ul style="list-style-type: none"> ・危険が伴う物(ハサミ・テープカッターなど)は自由に使えるようには用意できていない。 ・楽器に触れる回数も少ない。 ・読み聞かせや紙芝居は積極的に取り入れている。
(8)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	93%	<ul style="list-style-type: none"> ・通年の異年齢保育を通して、自然と様々な年齢の子ども同士と一緒に遊んでいる。 ・まだ、順番を理解できない年齢の子どもに対しても守ることの大切さを繰り返し伝えている。

6. 要保護児童への対応

児童虐待の兆候を見逃さないよう、保護者や子どもの様子に細心の注意を図る。万が一、虐待が疑われるような場合には、情報が施設長に必ず届くような体制を整えている。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1)虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届くようになっている。	87%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の視診で子どもの傷やアザの有無の確認や保護者の様子の変化に留意している。 ・会議など職員が集まる中で各家庭の情報交換をしつつ、虐待にあたる行為について確認している。 ・些細な点でも気になることは、すぐに上司に報告し、対応について相談している。 ・マニュアルの所在について確認不足である。
(2)虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	87%	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関して、各機関の連携はできている。 ・虐待の通告先を掲示している。

7. 特別な支援を要する子どもへの対応

インクルージョンを基本に保護者や職員間で共通認識を持ち、巡回発達相談員、専門機関と連携しながら、子どもの発達を保証する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1)環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	85%	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンディを持つ子への対応は保護者にも様子を伝えながら、一緒に関わり方を考え、配慮している。 ・定期的に保育園全体でその子の保育について話し合っていない。 ・研修の機会が多くあり、学ぶことができています。 ・段差やドアの広さなどバリアフリーの配慮に欠ける部分が多い。

8. 家庭福祉員 への支援

子育てや関連機関に関する情報を交換するとともに、保育所施設の提供、研修等の支援、保育の補完など支援していく。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 地域における子育て支援の情報や保育園の行事への参加をよびかけている。	100%	・定期的に訪問をして様々な情報を伝えている。
(2) 福祉員の保育の補完を支援している。	92%	・定期的に訪問をして様々な情報を伝えている。 ・自園の行事には参加してもらえていない。
(3) 研修への参加を呼びかけ、情報の交換をする。	100%	・研修に参加してもらい、参加して良かったという言葉をいただいた。

9. 在宅子育て 家庭への支援

多様な子育てニーズや地域の住民が求める援助を把握し、それに基づいた事業・取組を実施していく。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 地域の福祉ニーズを把握している。	67%	・利用者アンケートを実施し、在宅子育て家庭におけるニーズの把握に努めた。
(2) 地域の福祉ニーズに基づく事業・取組が行われている。	53%	・緊急保育の実施。 ・園庭開放や広場事業の中で子育て相談を実施。

10. 健康支援

子どもの健康状態、ならびに発達状態を把握する。また、疾病への対応は適切に行い、保護者ならびに全職員に周知し、必要に応じて関係機関も含め情報を共有する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 登所時や保育中の子どもの健康管理はマニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	93%	<ul style="list-style-type: none"> ・体調がすぐれない子や病み上がりの子についてはしっかりと状態を把握し、無理のないように個別対応をし、保護者にも様子を伝えている。 ・いつでも見られるよう各クラスにマニュアルを整備している。 ・マニュアルを新人職員が把握できていなかった。
(2) 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	86%	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、歯科検診の結果は担任には知らせているが、全職員には周知できていない。会議などの場で伝えるようにする。 ・保護者にはきちんと報告している。 ・嘱託医を交えてのカンファレンスは時間が取れないが、園長が代表で様々な情報交換をして、職員に報告している。
(3) 歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保護者に反映させている。	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・上記に同じ
(4) 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者に通知している。	81%	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が発生した場合は園長及び職員へ周知すると共に貼り紙や口頭で保護者へも知らせている。 ・予防対策について、保護者への通知、伝達が不足していることもある。

11. 環境衛生管理

施設的环境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努める。また、子どもおよび職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持向上に努める。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、昼など換気に気を付けている。 ・保育室の清掃、整頓を常に考え、行う必要がある。 ・トイレ後、外遊び後の手洗いは幼児クラスも石鹸を使いきちんと行えるように見守り、声掛けが必要である。
(2) 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。	85%	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭で遊んだり、近くの公園に出かけ体を動かしている。 ・食事専用の部屋はないが、食べ終えた後、速やかに片づけ、清掃を行い、同室でも快適に過ごせる環境づくりを心掛けている。

12. 保護者への支援

保護者との信頼関係を築き、子どもの最善の利益を考慮した保育ができるよう、育児相談や懇談会・家庭連絡等を充実する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1)一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っている。	89%	・送迎の際の対話はどの家庭にも漏れのないように心がけているが、十分な相談対応や子育て支援はできていないと感じる。
(2)家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	85%	・知り得た情報をきちんとした形では記録に残せていないことが多いと感じる。今後、しっかりと意識をしていく必要がある。
(3)子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	96%	・懇談会や保育参観を通して、保護者と関わる機会を持っている。

13. 研修計画

保育の質の向上のために定めた目標に向け、組織として目的意識をもった研修計画を策定し、その基本姿勢を計画の中に明示すると共に取組みを実施する。また、全市的な視点をもって資質向上の取組みをする。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1)職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	83%	・八王子市としての基本計画に明示しており、保育所職員としての研修も計画されている。
(2)個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組みが行われている。	89%	・職員の資質向上に向け、外部講師を招いての研修を5回実施した。
(3)定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	100%	・研修を終了した職員を中心として、研修で習得したKJ法を用いて園内研修を2回実施した。
(4)資質向上の取組みを全市的に行っている。	100%	・連携保育園や近隣保育園に声をかけ、一緒に研修を行った。

14. 小学校との連携

子どもの連続的な発達などを考慮して、互いに理解を深めるようにするとともに、子どもが就学に期待感を持ち自信と積極性を持って生活できるようにする。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 小学校との間で、小学生と園児とが行事などで交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携体制が整備されている。	95%	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計画的に小学校、中学校との交流ができている。特に小学校の職員との話し合いの場はとても良い。 ・支援シートについては年長児の保護者全員に漏れなく知らせ、メリットがあることを理解してもらうことで、活用の希望がある。

15. 地域との交流

保育所が地域社会の一員としての社会的役割を果たすと共に、地域の協力の中で子どもが育つような取組を行う。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 地域との関係が適切に確保されている。	89%	<ul style="list-style-type: none"> ・行事前には園周辺での挨拶回りを行い、積雪があった場合は周辺道路の除雪を行っている。 ・中学生の職場体験の受け入れや大根掘りを通して交流を図っている。
(2) 保育所が有する機能を地域に還元している。	81%	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅家庭に対して、園庭開放やあそびの広場を実施して、遊びを提供したり、子育て相談に応じている。
(3) ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	67%	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティアを受け入れている。 ・全職員にわかるようにマニュアルの整備はできていないので、今後、文章化して明確にする必要がある。
(4) 関係機関等との連携が適切に行われている。	78%	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童に対し、子ども家庭支援センターと情報を共有しながら見守りを行っている。 ・子育て相談の内容によっては民生児童委員と連携している。
(5) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	78%	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年対や評議委員会に参加し、地域の方との交流を図っている。
(6) 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅子育て家庭においてベビーマッサージや救急法などの講座を実施した。

16. 食育

食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみ、自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 食育を通して、こどもたちが食事を楽しむことができる工夫をしている。	88%	・楽しい雰囲気の中、子ども達がそれぞれの思いを保育士に伝え、個人の食欲や味覚に配慮し、無理なく食事ができている。 ・食事と遊びの空間が一緒であるため、食事の後半は慌ただしい雰囲気になってしまう。
(2) 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	94%	・食前に献立名を発表し、季節の食材や行事に基づいたメニューについて興味をもてるよう分かりやすく説明している。
(3) 食物アレルギーは、個別に配慮し食事を提供している。	94%	・アレルギー児の誤食がないように朝の打ち合わせ時、配膳時など日々繰り返し調理員と保育士で確認を行っている。
(4) 文化、習慣の違いなどの個別に配慮した食事を提供している。	94%	・どの子どもに対しても食事に関して無理強いをすることなく、個別に対応している。

17. 安全対策 事故防止

災害や事故の発生に備え日常点検や避難訓練を実施すると共に、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など、不測の事態に備えて必要な対応を図る。また、保育中の事故防止のために保育所内外の安全点検に努め、安全対策のために職員の共通理解や体制づくりを図る。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 調理場、水回り等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	60%	・独自の調理室チェック表を作り、日々安全、衛生の管理を行っている。
(2) 事故防止等のチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	86%	・不審者対策とし、市の防犯課の方や八王子警察から講師を招き、富士見台保育園における具体的な対策を学んだ。 ・保育所内外の安全点検を用務員を中心に行う。保育士一人ひとりが意識し危険箇所がないかどうかを職員会議日に点検した。

18. 長時間保育 の配慮

長時間にわたる保育にふさわしい環境を整備し、子どもが安心して過ごせるように配慮する。

小分類	評価結果	評価の根拠・具体的事例および改善方法
(1) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	94%	・夕方は1.2歳児と幼児クラスを分け、年齢に合った環境でくつろぎ、ゆったりと遊べるようにしている。 ・引き継ぎで伝達漏れがないように、メモで渡すようにしている。 ・遊びの提供の仕方や関わり方は職員によって違いがあり、今後検討が必要である。